（様式⑦　小中学校）

# 確かな学びと豊かな心･健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立新浅香山小学校
校長　　北庄司　愛浩

**中学校区におけるめざす子ども像**　「個性を伸ばすとともに，自らを律し他を思いやることのできる子」
**五箇荘学校群の目標**　「自ら学びに向かい、自ら取り組み、自ら表現できる子どもの育成」

**新浅香山小学校　令和５年度の重点目標**　「よりよくしようと考える喜び、人の役に立つ喜び、表現する喜びを持つ児童の育成」

**「確かな学び」の現状**
・昨年度まで国語科を中心として進めてきた研修を、今年度より算数科で「考え表現する力を育てる」を研修テーマとして深めていこうと考えている。
・学習に向かう児童の関心・意欲は高く、学力調査においても選択問題や短答式の知識・理解に関しては平均値を上回っている。しかし、資料やデータなどをもとに様々な情報を読み取り、考えを深め、表現する力に課題が見えてくる。

**「豊かな心・健やかな体」の現状**
・「学校に行くのが楽しい」「人が困っている時に進んで助ける」と答える児童がともに９割を超え、学校生活の満足度は高い。しかし家庭での携帯電話の使い方や読書時間については課題が見られた。
・新浅香っ子「７つの約束」を守ろうと努力する児童や「運動やスポーツをするのが好き」だと答えた児童が、ともに９割を超えていた。

**「地域協働・学校群」の現状**
・基本的な生活習慣の定着とともに、いじめや対人トラブルの早期発見と早期対応に努めることで、学校が安心で安全な居場所となっている。コロナで中止していた地域行事も復活し、地域の方も子どもたちの学校外の様子を優しく見守ってくれている。
・今年度より新たに五箇荘中学校区４校で、学校群モデル事業がスタートす

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 具体的な取組<br>（●重点とする取組、★中学校区での取組） | 判断基準<br>（評価のものさし） | 評価方法 | 評価時期 | 進捗確認<br>（～１１月） | | 達成状況（年度末）<br>自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 確かな学び | 学ぶ力の育成 | 自分で考えたことを表現する力を育成する。 | ●昨年度まで取り組んできた言葉の力の育成をさらに進め、どの教科においても自分で考え交流する場面を数多く設定して、自分の言葉できちんと伝える力を育てる。 | 「ほかの人の考えを聞いたあと自分の考えを書いたり、発表したりしていますか」の肯定的回答が８０%以上。 | 学習生活状況調査 | １０月 | ○ | 「ほかの人の考えを聞いたあと自分の考えを書いたり、発表したりしていますか」の肯定的回答が８１．１%で、目標を達成した。 | ○ | 研修教科を「国語」から「算数」に変えて約１年が経過した。学校群での合同研修や、算数で使う「言葉の宝箱」の検討を行い、学校全体で伝える力の育成に取り組んでいる。 | ○ | １１月の土曜参観で授業の様子を見せてもらった。子どもたちはとても前向きに学習に取り組んでいた。「表現する力」はとても大切なので、さらなる向上を期待する。 |
| | 授業改善 | 生きる力の基礎となる基礎・基本の力の定着を図る | つまずきに応じたきめ細かい対応を通して，児童が積極的に学習に取り組む環境を作る。 | 「授業はわかりやすい」の肯定的回答が、９０%以上。 | 学校教育アンケート | ２月 | ○ | 学校群で合同授業研修を実施するなど、教員が積極的に授業力向上に取り組んでいる。 | ○ | 研修による教職員の授業力アップとつまづきに応じたきめ細かい指導により「授業はわかりやすい」の肯定的回答が93.5と目標を上回った。タブレットの活用とともに「子どもが自ら学ぶ」という授業改革も進んだ。 | ○ | 日々の授業準備や学校群の合同授業研修を含めた研修の成果として、ほとんどの児童が「授業がわかりやすい」と回答していることは評価できる。タブレットの活用が学力格差を生むのではなく、逆に低位層の児童の学力向上に効果があることがわかった。 |
| | | | ★タブレットを効果的に活用し、授業改善に取り組む。 | 「授業でタブレットを週１回以上活用した」という回答が７０%以上。 | 全国学力学習調査 | １０月 | ◎ | 「授業でタブレットを週１回以上活用した」という回答が９３．７%とかなり向上した。 | ◎ | | ◎ | |
| 豊かな心･健やかな体 | 心の教育の充実 | 人の役に立つ喜びや大切にされる喜びを通して、豊かな人間性を育成する | ★集団づくりを通して、互いのちがいを認め合い支え合おうとする児童を育成し、日々の生活における幸福感を高める。 | 「学校に行くのが楽しい」という肯定的回答が９０%以上。<br>「あなたは今、幸福ですか」で肯定的回答が８０%以上。 | 学校教育アンケート | ２月 | ○ | 学期に１回生活アンケートを実施し、児童の学校生活における気持ちの把握に努め、その状況に応じた面談や支援を行っている。 | △ | 「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が81.2%と目標を下回った。しかし、「今、幸福だ」という肯定的回答は 90.6%と目標を上回った。生活アンケートや普段の様子観察を通して、いじめや不登校を生まない学級づくり、集団作りに取り組んでいきたい。 | ○ | 男女仲良く、放課後もクラスメイトと一緒に過ごす児童が多い。多少の人間関係のトラブルはあるが、学校が安心して過ごせる場所になっていると思う。幸せはお金で買うことはできず、今の自分が幸福であると気付けていることは素晴らしい。 |
| | | | 学校全体で支援体制を組み、障害者理解教育の充実を図る。 | 「人が困っている時に進んで助けていますか」の肯定的回答が９０%以上。 | 学習生活状況調査 | １０月 | ○ | 「人が困っている時に進んで助けていますか」の肯定的回答が９４．１%以上と達成。 | ○ | | ○ | |
| | 健やかな体 | 環境を整え、健康を大切にする児童を育成する。 | ●ゲーム・携帯・スマホの使い方に関するルールについての啓発や、読書習慣の定着に努める。 | 「読書が好きである」の肯定的回答が、７５%以上。 | 学校教育アンケート | ２月 | ○ | タブレットを使った読書ノートの活用や学校司書による読書活動の啓発に努めている。 | △ | 「読書が好きである」の肯定的回答が 68.1と目標を下回った。図書委員や学校司書による図書室利用の促進を行っているが、家庭の協力も不可欠である。「運動やスポーツをすることが好きですか」の肯定的回答は96.1%で目標を上回った。 | ○ | 大人も学生も読書をしなくなっている。そんな風潮の中であるが、学校では読書する習慣を育成してもらっていることは評価したい。児童数は少ないが、地域のスポーツ団体に入っている児童も多く、運動やスポーツに興味を持って参加しているのは良いことだ。 |
| | | | 体育の授業や体育大会などを通して、運動への意欲を高め、工夫した体つくり運動を推進する。 | 「運動やスポーツすることが好きですか」で肯定的回答が９０%以上。 | 全国運動調査 | １２月 | ○ | 連合運動会も復活し、体育行事もコロナ前の形に近づけて運動への意欲を高めている。 | ○ | | ◎ | |
| 地域協働・学校群 | 信頼される学校 | 児童の実態を適切に把握 し、地域・各家庭と協力し、基本的な生活習慣を確立し、安心で安全な居場所をつくる。 | ●みんなが安心して過ごすために、新浅香っ子「７つの約束」を確認し、ルールやマナーの大切さを理解して、進んで守ろうとする児童を育成する。 | 「新浅香っ子『７つの約束』」をしっかり守ろうと努力している」の肯定的回答が、８０%以上。 | 学校教育アンケート | ２月 | ○ | 児童朝礼や掲示物、各クラスの学級活動の中で、基本的な生活習慣の確立に向けての啓発に努めている。 | ◎ | 「新浅香っ子『７つの約束』をしっかり守ろうとしている」の肯定的回答が 92%と目標を大きく上回った。校区の小学校や中学校との交流は、学校群の取組として進んでいるが、調査が１学期のものであるため、次年度の調査結果に反映するものと考える。 | ◎ | 素直な児童が多く、あいさつもしっかりできている。今年度の学校群の取組の成果は、現６年生が中学校に入ってからの様子に現れるのではないかと期待している。小中連携や小小連携とともに、保幼小連携にも広げていってもらいたい。 |
| | | | ★学校群の取組を通して，小中連携や小小連携を進め，群目標の達成をめざす。 | 「校区の小学校と一緒に学習する機会がある」「小学校と中学校の児童と生徒の交流がある」の肯定的回答が５０%以上。 | 学習生活状況調査 | １０月 | ○ | ３学期に３小学校の３年生の総合学習で遠隔合同授業を計画している。６年生の中学校の部活動体験も１１月から実施している。 | ○ | | ○ | |

**校長より（年度末）**
「確かな学び」の面では、算数に研修教科を変更しても「言葉の宝箱」をキーワードにした表現力の育成に取り組んだ。また、リーディング DX スクール事業の指定校となり、児童用タブレットの活用や校務の ICT 化に努めた。「豊かな心・健やかな体」の面では、通常の学校生活が戻る中で、児童の学校生活の満足度は高かった。「地域協働・学校群」の面では、基本的な生活習慣の定着とともに、いじめ等の早期発見・早期解決に努めた。学校群の取組も順調に進んでおり、今年度の成果と課題を次年度の取組に生かしていきたい。

**学校関係者評価者から（年度末）**
子どもたちの様子を見ていると、とても落ち着いて学習や学校行事に取り組めているように思う。タブレットの活用や読書指導などに力を入れてくれている様子がわかった。いじめや不登校の問題については、今後も学校全体の課題として取り組んでいってほしい。学校群の取組は、小規模校である新浅香山小学校にとってメリットのあるものだと思う。今後さらなる成果が出ることを期待している。